



日本の未来を考える会

— 古き良き日本を取り戻す —

ホームページ
URLはコチラ
↓
nmkhome.jimdo.com



▶ [代表あいさつ 日本復活戦略モデル都市のご紹介](#)

▶ [お問い合わせ窓口](#)
▶ [メールで直接問い合わせ](#)

ホームページ 主要情報一覧 (クリックで進みます) ↓

日本復活の突破口を拓く！ 自給自立国家モデル都市

知らなかったで済まない
「日本」の現状

ロシア・ウクライナ戦争から紐解く—
新しい未来へ **日本**
私たちが知るべきこと、成すべきこと。

万世一系の「日本神道」文化
信仰から **証明** へ

『令和の修身教科書』国家観・人格教育
助け合い主義映像

ザ・モデルシティメイキング
ノウハウアーカイブ

武士道 — 神国日本の精神
新渡戸稲造 著 日本の未来を考える会公報室 訳

知らなかったで済まない「日本」の現状



↓気になる分野をクリック



自虐史観



石油利権



老後環境



言いなり政治



危険な農薬



少子高齢化

これらの様な 日本の社会問題の
根本的解決に向けて...

「自給自立国家日本」 モデル都市プロジェクトが 進行中です！



モデル都市の「考え方」

結婚 子育て 教育 就職 介護環境 など...
全ての世代に於いて不安が山積する日本の現状があります。

「戦前の日本は良かった。昔はこうじゃなかった。」
と思われるご高齢者、
また、そういう話を聞いた事のある方は
多いのではないのでしょうか？

昔ながらの助け合いの日本は、
一人一人の考え方が共通していた事で実現しており、
その考え方は、「修身教育」によって国民全員が一致していました。



● 修身教育とは？

戦前の日本にあった、「道徳・人格教育」です。
軍国主義の象徴として扱われがちですが、内容は、
人として大切な教訓を教えている事が分かります。
今日に続く、世界に誇れる日本人のメンタリティー
の形成に大きく寄与した事は否めず、
「道徳・人格教育」の重要性は計り知れません。

修身教科書で扱われた徳目 <small>文部科学省HPより</small>							
徳目	課の数	徳目	課の数	徳目	課の数	徳目	課の数
勤勉 勤勞	23	勇 氣	14	徳行 徳器	9	敬 師	7
孝 行	23	規律 法令	13	慈 善	8	興 産	7
忠義 忠君	22	自立 自営	12	兄 弟	8	進取の気象	6
公 益	21	度量 寛大	12	謝 恩	8	祖 先	6
誠実 正直	19	朋 友	12	忍 耐	7	健 康	6
勉学 学問 知識	17	儉約 勤儉	10	沈 着	7	博 愛	6



古き良き日本の 助け合い

学校での修身に基づいた人格教育と、
それに伴う助け合い精神の社会構造は、
世界に誇れる素晴らしいものでした。

戦前の日本は、助け合い精神に基づいた
人と人との信頼関係によって成立する社会であり、
若い男女は結婚するのが当たり前で、
5人も10人も子供を産んでいました。

そこには、子供たちの成長を見守る
おじいちゃんおばあちゃんがいました。

その仕組みが家庭だけでなく、
村、町、都市、国家まで
貫かれていたのが、
古き良き日本であったのでは
ないでしょうか。

若者向け特集映像 ▼

資本主義・共産主義も実現できなかった理想の社会が、古き良き日本にあった!? (15分)



モデル都市の先駆け、「モデル施設」の実績

古き良き元気な日本を復活させる為に、
全国の一部上場企業や多岐に亘る事業、
各種法人、個人などが提携し、
正しい国家観・歴史観教育を軸とした、
自給自立社会（モデル都市）の構築を目指しています。

モデル都市の先駆けとして「モデル施設」に挑戦し、
北海道をはじめとして関東・関西に於いても、
期待を超える実績を収める事が出来ました。



※ モデル施設・都市は、実際の生活モデルの舞台となっております。既に参加頂いている方、
これから参加をご検討の方のプライバシー保護の観点から、拠点等の住所はネットでは公開しておりません。

教育環境

机上の勉強だけでなく、人格教育や生きる力を身に付ける実学教育、正しい歴史教育を軸とした道德教育。

食品関連

添加物、遺伝子組み換え食品など、健康を害する食品を避けた安心安全な食事提供体制の構築。

土木・建築

各種有資格者が集まるプロ集団によるモデル施設の増改築や修繕。教育事業との連携で若者に実践的な教育環境を実現。

農業・養殖・養鶏

農薬や化学肥料を一切使用しない農業を実践。養殖・養鶏分野も危険な薬剤を使用しない生育法に挑戦。教育事業とも提携し、若者教育の場としても活躍。

災害対策

施設専用の燃料備蓄システムによるエネルギー確保と、緊急時に於ける自家発電システムにより、先の北海道胆振東部地震の全道ブラックアウトでも一切支障無い生活環境を維持。

自給自立を目指す
モデル施設
の実績

4・モデルシティーメイキング ノウハウアーカイブ

- | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  幼児保育 |  義務教育課程 |
|  高等教育課程 |  研究課程 |
|  ロープワーク (177種) |  サバイバル術 |
|  医療・防疫体制 |  介護医療 |
|  介護設備 |  厨房設備 |
|  厨房レシピ |  食品加工・保存 |
|  農業 |  エネルギー |
|  営繕課 |  環境整備 |
|  養鶏 |  養殖 |
|  狩猟・畜産 |  土木建築 |
|  電気 (基礎) |  危険物取扱 (基礎) |
|  ボイラー |  車両部 |
|  製紙 |  裁縫・衣料 |
|  IT (IT管理・ネットワーク管理) |  事務 |
|  理容 |  エステティック |
|  園芸 |  楽器・楽譜管理 |
|  運営基礎 |  生活環境 |

これらの分野を更に拡大しつつ、
一刻も早い全国化による
「現実的な日本復活」に向けて
全国各地で
具体的な取り組みが進行中です。

「モデル都市の理念」

学習会のご案内



人と人が集まる社会
「モデル都市」を形成するに当たっては、
一人一人の考え方が
どの方向に向いているのかが非常に重要です。

考え方が真逆であれば、
たとえ家族であっても**決裂**する様に、
その単位を拡大した、社会・国家に於いても
同じ状況となります。

「全員で一致した考え方」の方向性を定めるには、
様々な観点から**真実**を追求し、
客観的に物事を分析する事が大切です。

モデル都市に於ける、**基本的な考え方**を
こちらでまとめております。
是非ご研究下さい。



万世一系の「**日本神道**」文化

信仰から**証明**へ

万世一系の「日本神道」文化

信仰から証明へ

今まで、古い考え方として片付けられ...「信仰心」を軸としてきた
日本人の美德・人生観【死生観】の正しさを
科学的論理的に「証明」する事で、
日本復活を現実的に成し遂げる事が出来ます。

是非、最後までご一読ください。

日本人の「生き方」は、
世界から評価を受けています。

資料▶ 3.11 被災者への海外の評価 『日本に学ぶ10のこと』

2013年2月10日の毎日新聞に、
元世界銀行副総裁の西水美恵子さんによる寄稿
「東日本大震災から2年 日本から学ぶ10のこと」が掲載されました。
西水さんの元部下は、地震直後の東京で多くの人が
整然と助け合っていることに感動し、
「これが世銀やIMF（国際通貨基金）はもとより世界中を駆け回っている」と
西水さんにメールを転送しました。
「10 things to learn from Japan」と題されたそのメールには、次のように書かれていたという事です。



3.11 東日本大震災

●10 things to learn from Japan (日本に学ぶ10のこと)

1. The Calm (平静)

Not a single visual of chest-beating or wild grief. Sorrow itself has been elevated.

(悲痛に胸を打つ姿や、悲嘆に取り乱す姿などが見当たらない。悲しみそのものが昇華されている。)

2. The Dignity (威厳)

Disciplined queues for water and groceries. Not a rough word or a crude gesture.

(水や食料を得るためにあるのは、秩序正しい行列のみ。乱暴な言葉や、無作法な動作が一つとて無い。)

3. The Ability (能力)

The incredible architects, for instance. Buildings swayed but didn't fall.

(例えば、驚くべき建築家の技術。東京のビルは大きく揺れたが、崩壊しなかった。)



4. The Grace (品格)

People bought only what they needed for the present, so everybody could get something,

(人々は、皆に必要な物が行き渡る様に、必要最低限なものだけを買った。)

5. The Order (秩序)

No looting in shops. No honking and no overtaking on the roads. Just understanding.

(店では略奪が起こらない。

路上では、追い越し車も、クラクションを鳴らす車もない。思慮分別が出来ている。)

6. The Sacrifice (犠牲)

Fifty workers stayed back to pump sea water in the N-reactors. How will they ever be repaid?

(50人の作業員が命を懸けて、原子炉に海水をかける為に危険域に残った。

我々は彼らに報いる事が出来ようか?)

7. The Tenderness (優しさ)

Restaurants cut prices. An unguarded ATM is left alone. The strong cared for the weak.

(レストランは値段を下げた。無警備のATM(現金自動受払機)は強奪される事は無かった。

強者は弱者を助ける。)

8. The Training (訓練)

The old and the children, everyone knew exactly what to do. And they did just that.

(大人も子供も、すべての人が何をすべきか知っていた。そして、すべきことをした。)



9. The Media (報道)

They showed magnificent restraint in the bulletins. No silly reporters. Only calm reportage.

(崇高な節度を保つ速報。愚かな記者やキャスターなどいない。平静な報道のみがある。)

10. The Conscience (良心)

When the power went off in a store, people put things back on the shelves and left quietly!

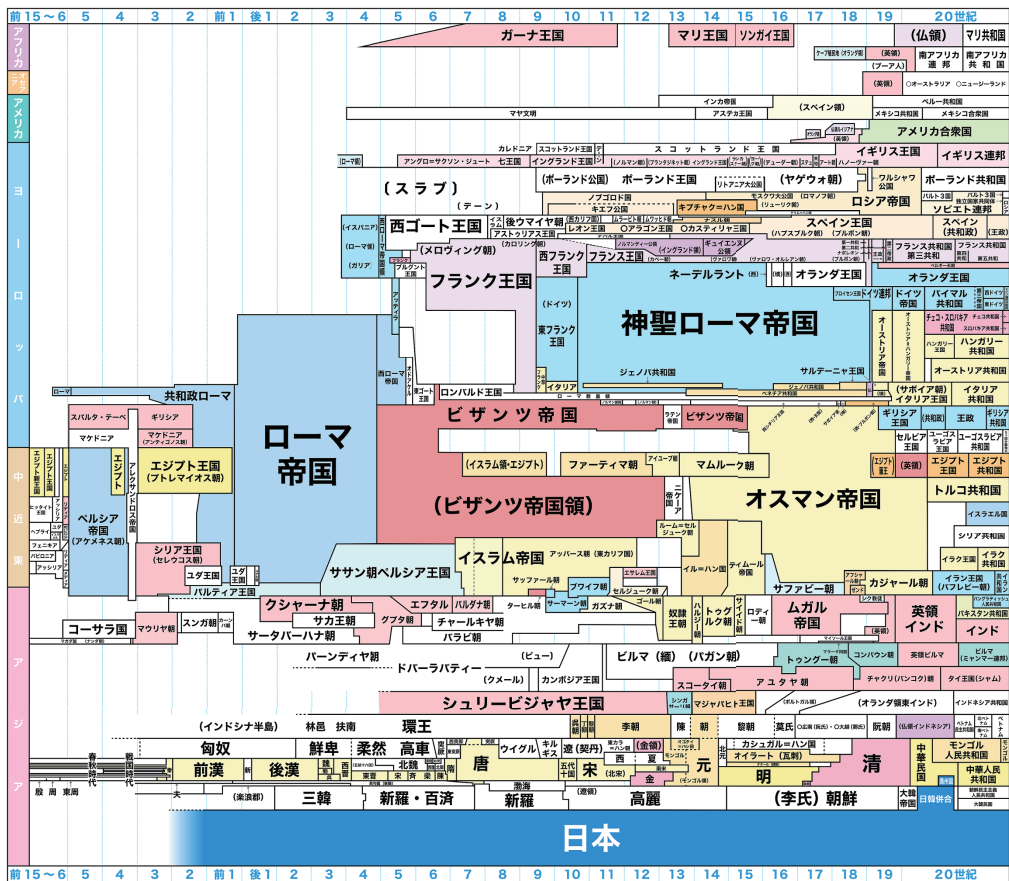
(停電になった時、レジに並んでいた人々は、品物を棚に戻して静かに店を出た。)

Truly Inspirational --what is happening in the Land of the Rising Sun.

真のインスピレーションを感じる。日いずる国で起こっていることに。



はるか昔から脈々と続く、愛情主義に基づいた『日本人の生き方・伝統』は、
世界で唯一、持続可能な社会を実現しました。



昨今、昔の日本に対しては、様々なイメージが持たれていますが、
学ぶべき教訓もたくさんある筈です。

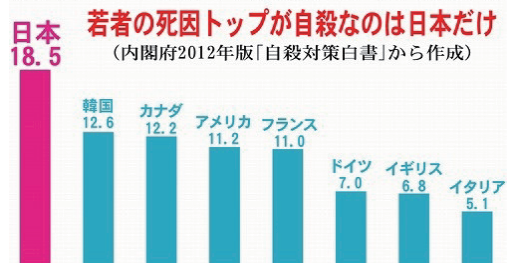
日本を牽引した偉大な先人方は、国連のパリ講和会議の場で
「世界で初めて」人種差別撤廃条約を提出しました。



- 提案：大日本帝国
- 賛成：大日本帝国・フランス・イタリア・ギリシャ・ユーゴスラビア・チェコスロバキア・ポルトガル・中華民国
- 反対：アメリカ合衆国・イギリス・ブラジル合衆国・ポーランド共和国・ルーマニア王国
- 提案破棄：アメリカ合衆国（議長国権限）

この様にして、
 世界の倫理観を導き、
 アジア諸国に希望を与えていた我が国日本でしたが、
 戦後、
【人生観・死生観の喪失】が加速し、
 若者の死因第1位が自殺という
「自殺大国」にまで陥ってしまいました。

若者(15~34歳)の自殺死亡率の国際比較





人 生観・死生観を考える一

生きる意味とは・・・

「自殺」をしなければ、

あるいは、延命治療を行って、120歳まで長生きすれば、
それだけで生きる意味は満たされ、
価値のある人生であるとは言えません。

人種平等の道理すら通らない、武力と策略が全ての、歪んだ世界の中、
祖国と、愛する人を守る為に命を賭した
若き特攻隊員や、英霊の方々の人生は、
長生きこそは出来なかったものの、
その人生には大きな価値があったと、私達は考えています。



資料▶ 武田邦彦 工学博士 (元中部大学特任教授) 『特攻隊員への想い』

※ インタビュー文字お越し

「なんでそんな、肉弾特攻するんだ！」と、
飛行機の特攻もね？別に特攻なんておかしいっていう人が居るんだけど ...
僕はこの時、親父がね、ちょっと旅順の海軍の、魚雷の水深の計算をしてたわけですよ。
京都大学の数学出て、軍隊とは関係無かったけど、学校の先生だったんだけど、
もう、計算が間に合わないっていうんで、行ったの。
その時、僕ら子供2人一緒に、母親もね？
何で行ったかは分かんない。
親父は終戦後あまりそれを話したからなかったから。

【涙声で】

えっとねー、それで、
ここで守ってくれたから、僕は生きてる訳ですよ・・・
その時に、彼らが特攻しなかったらね、
僕は今居ないんですよ・・・
だからね？ 多くの方はこれを間違ってる訳ですね。
これは失礼しました。

【涙を拭う】

えっとね、
あそこで特攻して、キャタピラに突撃したから、
その... 僕が居る訳ですよ・・・
まああの、私達はね、
あの一、旅順の海軍に居たから、
一般の引き揚げ者よりはちょっとは良かった。ね。
そういう事ですね。
だから！ 特攻なんて意味が無いって言うけど、
あれが特攻してくれたから、
ぼくら何万人が逃げてきたんですよ。
そういう事ですね・・・



日本の神道文化が築いた「死生観」

日本人の「生き方」の基礎には、
『お天道様が見ているから、悪い事をしてはいけない』や、
『嘘をついたら、地獄で舌を抜かれる』などがありました。

この基本的な倫理観こそ、私たちの先祖である若き特攻隊員、
一億総特攻に臨んだ日本国民が抱いていたものでした。

また、この倫理観は、
冒頭でご紹介した「日本に学ぶ10の事」から分かる、
世界を驚かせた3. 11東日本大震災に於ける日本人の行動にも繋がっています。

日本には古来から、
人は死んで終わりではない。
死後、魂だけの世界があり、
そこで、地上での行いに応じた報いを受ける
という教えがありました。

しかし、
これらの教えについて、戦後からは、
宗教的で科学的根拠の無い教えとして
十分な議論も無いまま片付けられてしまいました・・・



今、私たち日本人には、
失われつつある日本の美德の「正しさ」を「証明」する事が求められています。

科学的根拠ではない「文化」による教育に失敗した過去・・・

先の大戦時、
日本の大阪帝国大学よりも前に
韓国に京城帝国大学を
日本の血税で設立した程、
アジア人への教育に尽力するなど、
日本の国家神道に基づく
愛情による統治を行った
「満州国」「日韓併合」
の政策がありました。



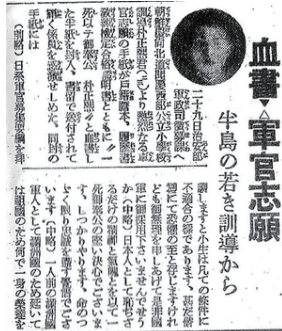
【パク・チョンヒ 元韓国大統領】
私は極貧の農家の家庭に生まれた為、
学校に行く事は夢みたいなき事だった。
両親に私を小学校へ通学させるよう説得してくれたのは、
日本人の役人だった。
そして、私を陸軍大学校へ推薦してくれたのは、
日本人の先生だった。

私が今日ここにいられるのは、
日本が確立してくれた義務教育制度のお蔭であり、
清廉で正直な日本人のお蔭である。

白人による、奪い殺すだけの植民地支配の残虐性と比べれば、教育やインフラなど、寧ろ現地住民の為に血税を投入した日本の行動の特異さは国家レベルの愛情主義のモデルケースとも言うべきものであり、

**人類歴史上、
余りにも貴重なものです。**

日本軍側の募集を遥かに超える倍率の朝鮮人志願兵が集う程、アジアの人々は、アジア解放の志を日本と共にしていました。



朝鮮人志願兵

年度	志願者	入所者数	選抜率	志願倍率
1938年	2946人	406人	16.2%	7.3倍
1939年	12,348人	613人	4.9%	20.2倍
1940年	84,443人	3,060人	3.6%	27.6倍
1941年	144,743人	3,208人	2.2%	45.1倍
1942年	254,273人	4,077人	1.6%	62.4倍
1943年	303,394人	6,000人	1.9%	50.6倍

しかし・・・

日本の立場が悪化した途端、「中国での通州事件」「在朝鮮日本人約2万人虐殺」が勃発しました。

いわゆる、手のひら返しでした。

中国韓国北朝鮮の人々は、日本統治下に於いて、**価値観が日本と一致していたのでは無かった事が分かります。**日本からもたらされる利益を目的とした、**ご都合主義・事大主義**であり、いわゆる、**我欲主義**だったのです。

「満州国」「日韓併合」の日本政策は、**国家規模で統治と教育を行った「貴重な前例」**であり、戦時下という特異な環境だったからこそ行えた我が国日本にとって、**最初で最後の経験**と言えるものです。**この歴史から教訓を学び取り、未来に臨まなければなりません。**

日本神道の「文化」は、日本国内では通用しましたが、中国韓国北朝鮮の方々の**価値観をも転換するには至れませんでした。**

しかし、人類みな兄弟という「八紘一宇」の思想を日本建国以来、天皇陛下から賜っている私たち日本人は、**自国だけを愛情主義で満たす事に留まってはなりません。**

我欲主義者の価値観を如何にして、**愛情主義に転換**するか、その教育の問題について**真剣に考えなければなりません。**



各地に建てられた石碑

その為には、日本古来の愛情主義観念に通じながらも、
個々人の信仰や慣習や「文化」に囚われない、
全人類に説得の利く【科学的論理的な理念】が必要となります。

目に見えない分野ですが、この事は非常に大切な事です。
個々人の「倫理観一つ」で、社会、国家、世界は大きく変化します。



個人の「倫理観」が

社会や国家に及ぼす重大な影響...

人としての在り方、
家庭の在り方を見失っている海外諸国は、
私生児
...お父さんの居ない子供の割合が
異常なまでに高まっている実情があります。

世界から見た時、我が国日本は、
「家庭の在り方」を示す
最後の防波堤となっているのです！

しかし、
個人の倫理観の在り方、家庭の在り方とは、一体何でしょうか？
その様な基準を、誰が定めたのでしょうか？

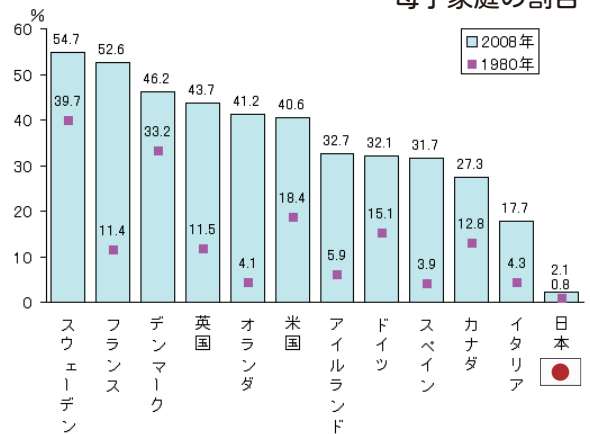
日本古来の在り方が「正しい」と
どの様に「証明」する事が出来るのでしょうか・・・

「WHOM」という
科学と哲学を融合する
全く新しい「理念・考え方」で物事を考察する事で、

個々人の信仰や慣習、文化に囚われず、
冷静な議論を行う事が出来る様になり、

我が国日本が綴って来た愛情主義の伝統、
そこから生み出された
日本古来の「倫理観」の意義と価値を
再発見する事が出来るようになります！

母子家庭の割合





人間の精神・哲学的分野である

「本来あるべき人生観・倫理観」を考察するに際して、

科学的な論理展開は【冷静な議論】を可能とします。

WHOM理念では、
日本古来の
「お天道様が見てるから
悪い事をしてはいけない」
という
愛情主義の「人生観」を、
徹底的に分析します。



「お天道様が見てるから悪い事をしてはいけない」
という哲学・人生観を説いた言葉を
現代人が聞くと、
様々な疑問が生じます。

「日本人が信じてきた“お天道様は実在するのか？”

「お天道様は愛情主義を志す“正義の存在だと証明出来るのか？”
破壊神や、自爆テロをさせる神も信じられているではないか。」

「お天道様が見てると言っても、それが“自分に関係あるのか？”

これらについて明快に答える事は至難の業です。

実は、これらの疑問は、
科学的思考回路と哲学的思考回路を分けて考える為に生じるものなのです。

人間はそもそも、
科学的な考え方と、哲学的な考え方の
両方を持っています。

感情を持たない科学者は居ませんし、
科学的思考回路を持たない哲学者も
居ません。

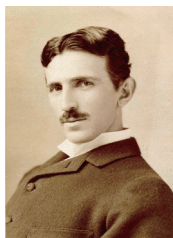
一人の人間の中では、
「科学」と「哲学」は、矛盾していないのです

科学
(論理)

哲学
(感情)



しかし、
様々な議論を行うと、
「科学派」と「哲学派」に**分断**され、
矛盾してしまうのが従来でした。



科学が非物質的な現象の
解明に挑んだならば、
10年間で今までの
人類の歴史全てを
遥かに凌駕する進歩を
遂げるだろう。

ニコラ・テスラ 電気技師、発明家
(1856年～1943年)

その科学と哲学を融合するのが「WHOM」という理念です。

WHOM学習会 のご紹介



日本の未来を考える会では、
「WHOM学習会」を
皆様と個別で日程を調整し、
全国の会場での〔対面形式〕や、
ビデオチャットでの
〔オンライン形式〕で**随時開催中**です。

1回1～2時間程が目安です。

状況により実費分の参加費を頂く場合がございます。

WHOM理念の
説明映像を視聴後、
意見や感想の交換を行う場です。
是非、お気軽にご参加下さい！



- メールでのご連絡先
nmkinformation@gmail.com
- ファックスでのご連絡先
0166-30-1391
- インターネットでのご連絡先
nmkhome.jimdo.com/contact



日本の未来を考える会

代表：阿部 裕

企業経営をする傍ら、北海道を中心に全国各地に於いて日本のあらゆる問題の根本的解決に向け、同じ志をもったメンバーと共に、民間でプロジェクトを進行中。机上の空論でなく、実体モデルの町づくり・都市づくりを全国に展開することにより、日本の復活を目指している。

日本の現状は、未来に希望が持てない若年層の自殺の増加、高齢者の孤独死、結婚率低下による人口の減少という様に、悪化の一途を辿っています。

「今の日本を何とかしなければいけない」という想いは、多くの日本国民の共通の想いであると思います。

私は、古き良き日本にあった、当時の修身教育に基づいた人格教育と、それに伴う助け合い精神の社会構造は、世界に誇る素晴らしいものであったと思っています。

人格教育された人と人との信頼関係によって成立する社会であり、若い男性と女性は結婚するのが当たり前で、5人も10人も子供を産んでいらっしやいました。

そこには、子供たちの成長を見守るおじいちゃんおばあちゃんがあり、村があり、町の人々がいました。

その仕組みが家庭だけでなく、村、町、都市、国家まで貫かれていたのが、古き良き日本であったのではないのでしょうか。

私達は、元気な日本を復活させる為に、日本が衰退した原因を追究し、さらにその解決策として正しい国家観と歴史観を基にした「現代に合った人格教育」を軸として、小規模ではありますが10年の歳月を費やし、モデル都市推進本部を中心に、北海道、関東、関西で既にモデル都市・施設を作り上げ、期待を超える実績を収めました。

- ① 人格教育（学校）
- ② 農業
- ③ 医療・介護
- ④ 賛同企業による若者の就職斡旋
- ⑤ 全世代を対象にした居住施設

を兼ね備えたモデル施設がそれに当たります。

これらの規模を更に拡大し、

また、一刻も早い全国展開による現実的な日本復活を目指して、計画を進行中です。

具体的な「取り組み」

インターネットで公開中▶
nmkhome.jimdo.com



人口減少が深刻な問題になっている日本に於いて、
根本的な解決には、

そもそも、若い男性と女性が結婚し、
子供を安心して産める環境がある事が大前提として必要です。

また、全ての方がいずれ高齢になるという事を考えれば、
ご高齢者が安心して生活出来る事も、
絶対的に必要である事は言うまでもありません。

しかし、若者の貧困化により、現実的に結婚が出来ない方も居れば、
なぜ結婚をしなければいけないのかも分からない若者も増えています。

一方で、ご高齢の方の本当の幸福は、
自分の孫や近所の子供たちが自分を慕い、
親孝行であり、国を愛し、悪を見抜く知恵があり、
悪に屈せず、立派に育ってくれる事であるのは、間違いの無い事実であると思います。
しかし、人格的な教育が子供や若者に積極的に行われていない現状を見た時に、
その状態のままでいくら良い仕組みを作りあげたとしても、
個人の考えが我欲であるならば、
何人集まっても我欲主義者の集まりにしかならないのは当然であり、
その様な若者にご高齢の方々が残りの人生を託す事は難しいのも事実です。

ここに、

人間の最も基本となる人格教育を軸とした学校の必要性と、
それに基づいた方々の生活基盤となる、
古き良き日本の町作りが必要になる理由があります。

今の日本は深刻な状況になっています。

枝葉的な解決ではなく、根本的解決に迫られています。

悪い事を見抜ける知恵と共に、人格教育を軸とした生活基盤があったのが、
古き良き日本の村であり、町であり、国でありました。

それを取り戻せるかどうか、

日本が復活するか、衰退の一途を辿るかの分水嶺になると確信しております。

是非ともご理解の上、

私共の活動にご興味を持ち、

ご協力頂ければと切に思います。

ご関心のある方は、是非ご連絡下さい。

今後とも、日本の未来を考える会をよろしくお願い致します。

日本の未来を考える会

— 古き良き日本を取り戻す —

日本の未来を考える会 モデル都市プロジェクト
Printed in Japan

当会は全国の各種企業法人個人からなる民間の団体です
政党、各種カルト宗教団体等との関係はありません

公式ホームページ | <https://nmkhome.jimdo.com/>

